聖書宣教会通信

Japan Bible Seminary Newsletter

No.188
2022.6.1

巻頭言
Greeting

× 伊藤　暢人
Nobuhito Ito
聖書神学舎教務主任
（永福南キリスト教会牧師）

Profile

1970 年生まれ。聖書神学舎 47 期卒。神奈川県藤沢市で 12 年間の伝道牧会を経て、2018 年度より永福南キリスト教会牧師。聖書神学舎では 2009 年度から講師・教師、2015 年度より教務主任。

「強くあれ。雄々しくあれ。」

ヨシュア記 1 章 1 節は「主のしもべ」と言われるモーセの死から始まります。時代の転換期の中で後継者として立てられたのはヨシュアでした。主はヨシュアに命じられました。「立ってこのヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地に行け。」モーセはすでにおらず自分がリーダーとして立てられたところで聞く主の命令は、ヨシュアにとって格別のものだったに違いありません。主はヨシュアに取るべき地をすでに約束されていましたが、それは待っていれば自動的に手に入るわけではありません。「あなたがたが足の裏で踏む場所はことごとく」とあるように、具体的に行動し足の裏で踏みつけるようにして獲得しなければならないのです。しかし、主は召しと使命とともに保証もくださいました。「わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」モーセと同様の臨在の恵みが約束されます。

それだけでも十分に思われますが、続く 6–9 節に激励とも言える主のことばが続きます。「強くあれ。雄々しくあれ」と 3 回にわたって繰り返されます（6、7、9 節）。昔教会学校で歌った子ども賛美が思い出されるフレーズです。

そして 7 節に、強く雄々しくあることの目的が告げられます。「ただ強くあれ。雄々しくあれ。わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法のすべてを守り行うためである。これを離れて、右にも左にもそれてはならない。」強く雄々しくあるのは、勇ましく戦うためであるよりは、みことばを守り行い、そこから離れないためでした。みことばに従順であるためです。

8 節に「昼も夜もそれを口ずさめ」とあるのは、詩篇 1 篇を思い起こさせます。昼も夜も口ずさむとは、それを愛しているということです。みことばが喜びなので、絶えずそれを口ずさんでしまうのです。

私たちが学び舎でみことばを学ぶ意義も、ここにあるのではないでしょうか。みことばに従順であるとは、単語や文法を勉強して神学を説明できるようになればそれでよいということではありません。みことばにおいてご自身を啓示してくださった神と、また主イエス・キリストを、私たちがより親しく、正しく知るようになること、そうして主を恐れ、愛し、人格的な触れ合いにまで導かれることに、学ぶことの目的があります。言い換えれば他のものから心が離れて、本当に主を喜ぶようになることです。そうして初めて、私たちは奉仕者として整えられていきます。

新型コロナウィルスや戦争の知らせに心の騒ぐ時代です。しかし、そのような中でも私たちに託されている使命を見失わず、右にも左にもそれないために、強く雄々しくありたいと願います。（入会式の説教［ヨシュア記 1 章 1–9 節］からの縮約。）

No.188 Topics

- p03　新入会生
- p04-06　2021 年度卒業生
- p07　卒業生を迎える教会の声
  新入生を送り出す教会の声
- p08　拡大教育・継続教育、決算 / 予算

天の窓を開いて

赤坂 泉
Izumi Akasaka
聖書宣教会 校長

十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、
わたしの家の食物とせよ。
こうしてわたしを試してみよ。
―万軍の主は言われる―
わたしがあなたがたのために天の窓を開き、
あふれるばかりの祝福を
あなたがたに注ぐかどうか。
（マラキ 3:10）

学舎近況

聖書神学舎の 2022 年度は、卒業と入会だけでなく、退会と休会もあり、結果、研修生の実数 16 人で始まりました。最小規模であることに加え、聴講にも一定の制限を続けているため、教室には空席が目立ちます。だからと言って静か過ぎることもありません。活発な学びと研修生活、交わりと奉仕が続いています。研修生会や寮の運営には工夫の要る面も多々ある様子です。家族寮では 9 人の子どもたちも元気で、5 月には 2 人の新生児が加えられました。さらに 1 人の誕生を待っています。

新しい試みとして「アシスタント」を設置しました。一人は卒業したばかりの吉村直人師、もう一人は今年度からの新講師でもある星野仁子師で、研修生の学修支援や拡大教育実務等々を担ってまいります。

夏に向けてキャラバン伝道の準備が具体的に進み、夏期研修講座と教会音楽夏期講習会の申込が届いています。あらゆる機会を用いて、主が御国を拡げ、また、献身者を起してくださいますように。

秋の拡大教育については 8 頁をご覧くださり、お祈りください。

供給してくださる神

2021 年度決算概要の報告も 8 頁にあります。諸教会の、また大勢の主の民の、献身的な祷援を感謝しています。文字通り「教会のわざ」としてこの学舎の働きが続いています。したがって経済の必要であれ、教職員の人材の必要であれ、これからも教会の主ご自身が満たしてくださると信じています。引き続き、どうか経済と、特に人事の必要のために、主の供給をお祈りください。

諸教会においても戦いは厳しいことを承知しています。天の窓を開いて、あふれるばかりに注いで下さる神に、一同が信頼と献身を新たにさせていただき、主の祝福を味わいたいと思います。

変化を越えて

コロナ禍で急速に日常化したオンラインのコミュニケーションは、不足の感も拭えませんが、様々な可能性を開きました。学舎では日本と世界の各地で奉仕している同窓生をチャペルの説教者として迎えることもできています。ウクライナ情勢の報告会では、リアルタイムの情報に接して祈ることができます。国際的な学びの機会にたやすく参加できます。距離と時差を突破して集まって会議ができます。積極的な変化であり、時代の困難の副産物とも言えます。

これからも世界は変化し続け、予想も出来ない激変に直面することもあるでしょう。どうであっても、方法においては柔軟に、本質においては堅持すべきものを見据えて、宣教の働きに、神学教育に励んでまいります。

02 新入会生 New Students

左から、林、川口、狩野、橘川、中村

氏　名	出身教会	奉仕教会
聖書神学舎本科 [4名]		
狩野（かのう）　和信（かずのぶ）	日本福音キリスト教会連合　馬天（ばてん）キリスト教会	キリスト教朝顔教会
川口（かわぐち）　美琴（みこと）	日本長老教会　横浜山手キリスト教会	横浜山手キリスト教会
橘川（きつかわ）　弘毅（こうき）	単　立　デュッセルドルフ日本語キリスト教会	奥多摩福音キリスト教会
中村（なかむら）　瑞来（みずき）	保守バプテスト同盟　盛岡聖書バプテスト教会	キリストの栄光教会
聖書神学舎聖書科 [1名]		
[聖書専攻]		
林（いむ）　哉希（じぇひ）	日本長老教会　あきる台バイブルチャーチ	あきる台バイブルチャーチ

主が捕らえてくださいました

川口 美琴

「聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。」「信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです」とのみことばに捕らえられました。私の願いや努力によるのではなく、ただ主の深いあわれみによって、愚かでわきまえのないこのような者をも召し出していただいたことに、畏れと驚きを覚えています。

この学舎に導かれたのは、思いがけないことでした。しかし、この導きを通して、生きておられる主の恵み深さを教えていただいています。朝ごとに新しく与えられる恵みのみことばに聴き続け、御霊に導かれて、みことばから右にも左にも外れることなく、主にお従いする者へと、学びながら一歩ずつ成長させていただけますようにと祈っています。

ご計画のままをみな実現される方

橘川 弘毅

私が、妻とヘーゲレ牧師に献身を告白したのは、59歳になる2020年夏でした。臆病から来る長年の葛藤を振り払う為に、神様に背中を押されて告白してしまった、というのが正直な想いです。それ以来、入会に向けて全ての準備が、あれよあれよと順調に進みます。長年奉仕していた教会役員の引継ぎに一年、コロナ禍で聖書宣教会訪問が叶わなかったにも関わらず親身になってご対応頂いた事や入会試験にご対応頂いた事、勤務先への辞表と引継ぎ、32年に及ぶ海外生活の全てを清算、コロナ入国規制、日本の新生活の準備。長く煩雑な難問の全てが、問題なく進行した経験を通して、臆病な私の翻意を防ぐ為、主が全てを働かせて、献身の思いを守ってくださいました。次のみことばが私の上にも実現したと思います。「私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、このようにあらかじめ定められていたのです」（エペソ 1:11）。この主のみことばに拠り頼んで、学舎での学びを始められる事を、神様に感謝します。

03 2021年度卒業生 New Graduates

左から、大橋、石川、大條、谷口、吉村、李、高石

氏　名	出身教会	奉仕先	
聖書神学舎本科 [6名]			
大橋　歩（おおはし あゆむ）	山形第一聖書バプテスト教会	保守バプテスト同盟	いわき希望教会
高石　啓明（たかいし ひろあき）	かもい聖書教会	日本福音キリスト教会連合	かもい聖書教会
谷口　真樹（たにぐち まさき）	伊勢バプテスト教会	日本バプテスト宣教団	津バプテスト教会
吉村　直人（よしむら なおと）	保守バプテスト津田沼教会	日本福音キリスト教会連合	上水めぐみキリスト教会
李　相扶（い さんぷ）	東明国際キリスト教会	日本長老教会	あきる台バイブルチャーチ
石川　礼（いしかわ れい）	東大宮福音自由教会		
聖書神学舎聖書科 [1名]			
[聖書専攻]			
大條　瑛子（おおえだ えいこ）	ぶどうの樹キリスト教会		

未完成であることを自覚し続ける

大橋 歩

「完成して卒業していくわけじゃない。これからだよ。」「学んできたことはこれから学ぶための土台に過ぎない。」これらの言葉は先生方、先輩方からチャペルでの礼拝や学びの中で毎年聞かされてきたことです。今卒業を目の前にして改めてこれらの言葉を覚えさせられています。聖書宣教会を「卒業」するということを「学びを成し遂げた、終えた」と間違って考えてしまう誘惑があることを思わされています。

宣教会での学びを振り返ってみると、いかに自分が未熟であるのか、主の働きにふさわしくない者であるのかを覚えさせられることの連続でした。自分の力、努力によってではなく、ただ主の憐みによってここまで支えられ学ぶことができました。主の働きのために主が召してくださったからこそ、自分は聖書宣教会で学び、今卒業することができるのです。そしてこれからも主の召しにあってふさわしく整えられ続けていく必要があるのだと思います。

「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」

（申命記 6:5）

主との親しい交わり

高石 啓明

卒業を前に心に響いているみことばはエレミヤ書23章21-22節です。このみことばは、偽預言者に対する叱責であると同時に真の預言者に欠かせない「主の派遣」と「主との親しい交わり」について語っています。

みことばを語る者は主から遣わされていなければならない。改めて召しが問われます。しかし逆に言えば、この「主の派遣」の確信こそが、どんな時も、どこまでも伝道者を支えるのです。

神様は、預言者が「主との親しい交わり」に加わっていたなら、人々を神様に立ち返らせ、その働きは確かに実を結ぶと言われます。私たち信仰者にとっての「主との親しい交わり」とは、みことばと祈りにおける主との交わりです。究極的には、「主の派遣」を確信するのも「主との親しい交わり」を通してです。4年間を振り返ると、この主との交わりを欠いていたことがどれほどあったことかと悔やまれます。だからこそ、「主の派遣」を確信し、「主との親しい交わり」に生き、喜んで、生き生きと主にお仕えしたいと願います。

「主は私に言われた。『まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。』」
（エレミヤ 1:7）

みことばに誠実に

谷口 真樹

聖書神学舎での学びと訓練の日々を感謝いたします。ここでの4年間で学んだことは、「聖書は何と言っているか」を誠実に聞き続けるということでした。みことばに聞くとき多くの恵みがあります。しかし、しばしば私は「答え」がすぐに欲しくなり、その過程を疎かにしてしまうことがあります。それでは周りの声に振り回されてしまうし、自分の語りたいようにみことばを語ってしまう危険があることを学びました。

ある先生が「若者の伝道者は、なおさらみことばに誠実に取り組みなさい」と教えてくださいました。私は経験に乏しく、弱く、未熟な者です。だからこそ、「聖書が言っていること」に聞き続け、みことばを語らなければならないと思っています。それこそが私に与えられた使命であり、この学び舎に遣わされた意味だと思っています。入会してから4年間で世の中の状況は大きく変わりました。しかし、みことばは永遠に変わることがありません。主が「そこまで」と言われるまで、みことばに誠実に仕える者でありたいと願います。

なぜ聖書を原語で読むのか

吉村 直人

この問いは、私が4年間の中でも何度も考えてきたものです。宣教会では多くの時間を、原語の学びとそれに基づいた聖書釈義に捧げます。ギリシャ語やヘブル語といった古代言語の学びを深めれば深めるほど、その困難さに直面しました。たった4年程度では、原語の感覚はわずかにしか身につきませんし（もしかすると一生！？）結局、私程度の者が本気で取り組んだところで、どれだけのことがわかるのだろうか…。それならば、同じ時間で日本語や英語でしっかり聖書を読んだ方が良いのではないか、と思ったこともありました。

しかし4年間を通して私が受け止めつつあることは、主はギリシャ語やヘブル語を用いてお語りになったということです。これはもちろん、日本語では不十分だということではありません。しかし、主がそのように語られたのであれば、私はできる限りその通りに（すなわち原典で）みことばを聞いていきたいと願うのです。牧会者として召された者として、神のことばに誠実でありたいと思わされた4年間でした。

今、冒頭の問いは、私にとって次のように変わりました。
「なぜ聖書を原語で読まないのか」
まだまだ途上の者ですが、主に感謝して。

恥じることのない働き人として

李　相扶

私は聖書宣教会に入会する前に、教会教職として奉仕していました。導きの中で教団と教会を辞し、神学舎に入会しました。羽村での生活から多くの恵みがありました。

①生きておられる神様をより実感できる時でした。経済の事を始め生活においての沢山の祈り課題に真実に答えてくださいました。多くの方に祈られ、支えられて、日々主が導いておられることを確信するようになりました。

②神を恐れること、みことばに対しての謙遜な姿勢を多く教えられました。原語を学びながらみことばに向き合う姿勢を教えて頂きました。聖書にとどまって慎重に意味を考えることが大切であることに気づかされました。学んだことをこれからも続ける者になりたいです。

③日本をもっと知り、深く理解するきっかけとなりました。他教団の研修生たちとの交わりと、先生方の教えから、日本と日本の教会をもっと知る事が出来たと思います。今の時代にどのような宣教の働きをすれば良いのか深く考えるようになりました。

神学舎での学びは、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として歩み始めるスタートでした。これからも一生学び、最善を尽くし神様に捧げる献身者として生きて行きたいです。

みことばに真に向き合うということ

石川　礼

この3年間は、日々主に完全に委ねることの大切さと、自分の力では何も為し得ないことを教えていただく歩みでした。いくら走ってもゴールにたどり着かないかのような多忙と疲弊の中にあって、主の前にいかに誠実であるか問われました。結局、誠実であり続けることができない自分の弱さを思い知らされ、このような者を取り扱ってくださる主のあわれみ深さを実感しました。みことばに真に向き合う時、神の素晴らしさを知る感動とともに、罪深い自分の姿にも直面しました。みことばによって罪を示される苦悩や、主に従いきれない自分がみことばを語ることに対する葛藤は、これからも続いていくでしょう。しかし、みことばと格闘するたびに、みことばへの畏れと信頼が増し加えられます。ここで終わるのではなく、生涯をかけて学び続け、キリストの似姿へ近づけられ、用いられていくのでしょう。主が伴って教えてくださるのだと思うと、厳しい道のりであっても、わくわくします。

祈りと献金によって支え、訓練してくださった教会の方々、忍耐強く指導してくださった先生方、ともに学んできた研修生の皆さんに心から感謝しつつ、今後も主の導きに従って歩みたいと思います。

主が成させてくださる

大條 瑛子

私たちの信じる主は、どこまでも真実を尽くしてくださるお方です。研修生活を終えて、このお方に全てを捧げたいという思いが与えられました。入会した頃「神様に自分の人生の全てをお捧げしたい」という研修生の証を読んで、どうしてそこまで言えるのだろう、私は神様に従いたいけれど、自分を捨てて神様に全てを捧げるなんてできないと思いました。しかし、後になって、それは自分の力ですることではないことに気づかされました。日常生活において神様の働かれない領域はなく、どんな些細なことにおいても神様に信頼して委ねること、自分の思いを脇に置いて、まず神様の御声に聞くこと、そのような訓練の中で既に、自分を捨てることの意味を神様は教えてくださっていると思いました。そのことのゆえに「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい」というイエスさまの呼びかけに対して、次のように応答したいです。

「自分の力では出来ません。しかし、イエスさまを信じる信仰によって、主がそのことも成させてくださると知りました。ですから、私は真実な主に委ねた上で、従っていくことができます。」

04 卒業生を迎える教会の声
From Churches Where New Graduates are Serving

大橋歩神学生ご家族を初代牧師として迎えました

伊藤 順造
Jyunzo Ito
宣教医

いわき市で医療宣教師として労して 37 年目を迎えました。26 年前、いわき希望教会（IHC）を立ち上げました。神の子羊の群れが生まれたため、20 年間、牧師を代行して来ました。昨年クリスチャン 50 年（ヨベルの年）を迎え、リセットを主から迫られ、みことばの奉仕に区切りすべく準備しました。時を同じくして、主の恵みにより、教会発足時に負った多重債務から IHC がフリーにさせられ、いつでも牧師先生をお迎えできる状況が整備されました。まさにその時、奇しくも宣教会出身の山形第一聖書バプテスト教会の紺野真和先生が、IHC の喫緊の課題に目をとめて下さり大橋神学生ご家族をご紹介してくださいました。何よりも幸いだったのは、大橋歩・忍ご夫妻が、IHC の「牧師招聘」を「マケドニアの声」と受け止め決断してくださったことで、3 月 21 日の牧師就任を迎えました（就任式の写真です）。

この一か月は、26 年間のすべてを大橋先生に継承すべく共同作業をしておりますが、聖書宣教会の「働き人を育て上げる教育」がいかにすばらしいかを、大橋先生という窓を通して味わい知ることとなりました。エレミヤ 30：18-19を深く味わっています。
ハレルヤ！

05 新入生を送り出す教会の声
From the Sending Churches

送り出す恵みと祈り

狩野 和義
Kazuyoshi Kano
馬天キリスト教会 牧師

聖書神学舎 17 期卒、東京出身の私が、妻の郷里沖縄伝道に来て今年 44 年目。神学舎の恩師や同窓の先生方には色々お世話になり、主にある交わりに感謝です。
生涯現役を願っていますが、70 歳ごろ遅まきながら、次世代への重荷と責任を感じて祈るようになりました。その頃教会の婦人たち、特に年輩の婦人達から「後継者のために祈っていますよ」と言われました。

当教会では、“祈りのカレンダー”を半年ごとに更新し、個人の祈りの課題を共有していますが、狩野和信夫妻が牧会・伝道の献身を意識するようになってきました。私の母（当時 95 歳）の主日礼拝をサポートし、昨年 4 月に召されるまで喜んで責任を担ってくれました。教会堂と庭の整備を、率先してやってくれていました。

役員であった彼が抜けた後、「主がお入り用なら」と彼の兄が態度を表明しました。彼らの献身が、教会員全体の献身に繋がるよう祈っています。キリストの教会で生まれ育てられた器が、紆余曲折を通りながら、みことばに基づく霊的訓練と教育に与り、みことばをこよなく愛する主のしもべになってほしいと願っています。

教会はもろ手を挙げて送り出し、祈り、支える事で共に恵みと祝福をいただくことでしょう。教会最長老の姉妹（88 歳）が「彼のメッセージを聞くまでは」と祈っています。
「仕えられるためではなく仕えるために」（マタイ 20：28）

聖書宣教会通信 No.188 発行者：末松 隆太郎 〒205-0017 東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel 042-554-1710 Fax 042-554-5562 http://www.bibleseminary.jp/ 振替 00150-6-34971（聖書宣教会）

2022 年度の拡大教育・継続教育

三浦 譲
Yuzuru Miura
聖書神学舎 教師

これまで聖書神学舎の拡大教育として、四ツ谷における「聖書講座」と、また「教会合唱講座」を行ってきました。「教会合唱講座」に関しては、今も続くコロナ感染の状況に伴い、今年度も中止することとなりました。しかし今年度は、拡大教育・継続教育として、新たに次の三つの講座を考えています。

❶ 「聖書塾」：これまでの四ツ谷での「聖書講座」に継続するものですが、聖書の基礎的な学びを求めておられる信徒の方々のための学びです。今年度からはお茶の水クリスチャンセンターにおいて行われます。9月から毎週一回ずつ（金曜日）の10回の講座で、今年度は小山田格先生が「旧約に見るキリスト」というテーマでお話してくださいます。

❷ 「公開講座」：若い方々や一般の方々を対象に、聖書に親しみ、聖書を読む喜びを共有できるような講座をと願っています。2023年3月あたりの土曜日の一日を用いて、首都圏の教会を会場にして皆さんで集まりたいと思っています。皆さんに聖書神学舎のことを理解し、覚えていただく日となればと願っています。

❸ 「旧約・新約釈義クラス」：聖書神学舎の卒業生の方々を対象に、旧約・新約釈義を継続して学んでいくコースです。2023年2～3月あたりに4回の講座を行う予定です。全国から学びに参加できるようにと、オンラインでの開催を考えています。

このようにして、聖書神学舎では、一般の信徒の方々にも広く学びを提供し、また卒業された方々も継続して学ぶことができる機会を提供し、この時代にあって神のことばである聖書の深みをできるだけ多くの方々と共有していくことができればと考えております。お祈りに覚えていただければ幸いです。

2021 年度収支決算概要 / 2022 年度収支予算概要

単位/千円

収入の部	2021年度予算	2021年度決算	2022年度予算
維持献金	28,500	26,431	28,000
指定献金(研修生)	20,000	18,429	17,000
特別指定献金	7,900	10,387	9,020
その他収入	12,410	11,549	16,101
収入の部合計	68,810	66,796	70,121

支出の部			
活動費	5,920	4,810	5,980
管理費	12,450	11,416	14,390
人件費	31,304	29,707	30,946
聖書学研究所	2,800	1,464	2,800
その他支出	16,336	19,168	16,005
支出の部合計	68,810	66,565	70,121
収支差額	0	231	0

万物を治めておられる主の御名を賛美します。

今年度も学舎のすべての必要が豊かに満たされたことを、主と諸教会とへの深い感謝をもってご報告します。教会も神学校も、あらゆる社会経済活動とともに感染症対策の制約を受けた2021年度でしたが、諸教会、兄弟姉妹の変わらない力強い祈りと献げ物に支えられました。匿名の、愛の配慮に満ちた献金や献品にも励まされました。ありがとうございます。

皆様の上に、主の顧みと祝福がありますようにお祈りしています。諸教会のすべての必要も、主が満たし、祝してくださいますように。

(聖書宣教会財務)